

コミュニティ・アセスメント演習 目標到達度

	達成できた	ほぼ達成できた	不十分な達成	達成できたとはいえない
1. 「地域を看護する」ために必要なアセスメント・介入計画・実施・評価に至る一連の過程を説明できる。(A-1)	アセスメントから評価までの一連の過程を明確に説明でき、適切に情報をアセスメントし、地域特性をふまえた介入計画および評価計画を立案できる。	アセスメントから評価までの一連の過程の大部分を説明でき、地域の健康状態やニーズをアセスメントし、介入計画および評価計画を立案できる。	アセスメントから評価までの一連の過程の理解が不十分であり、地域の健康状態やニーズのアセスメントと介入計画、評価計画に一貫性がみられない。	アセスメントから評価までの一連の過程を理解しておらず、説明できず、地域の健康状態やニーズのアセスメントが不十分であり、介入計画および評価計画を立案できない。
2. Community as Partner Model 及び PRECEDE-PROCEED Model 等の主要な理論を活用できる。	理論を適切に選択して地域診断に活用し、地域の健康課題の解決に向けて具体的な提案をすることができる。	理論を適切に選択して地域診断に活用し、情報の整理、アセスメントができる。	理論の活用を試みることはできるが、理論の選択が不適切だったり、十分に活用できない。	地域診断に関する理論を理解しておらず、活用できない。
3. 地域の健康課題に関するデータ分析に統計解析やエスノグラフィー等の研究方法論を用いて分析することができる。(A-1)	地域の健康課題に関するデータ分析に統計解析やエスノグラフィー等の研究方法論を適切に使い、収集したデータを分析することができる。	地域の健康課題に関するデータ分析に統計解析やエスノグラフィー等の研究方法論を用い、概ね自力で収集したデータを分析することができる。	地域の健康課題に関するデータ分析に統計解析やエスノグラフィー等の研究方法論を用いることができるが、分析結果を読み取ることができない。	地域の健康課題に関するデータ分析に統計解析やエスノグラフィー等の研究方法論の理解が不十分であり、用いることができない。
4. 多様な文化を尊重しながら、ソーシャルキャピタルや地域の強みや地域の強み等を含む地域特性をアセスメントできる。(A-1)	多様な文化を尊重し、ソーシャルキャピタルや地域の強みに特定し、地域特性を適切に考慮したアセスメントができる。	多様な文化を尊重し、ソーシャルキャピタルや地域の強みを特定し、助言を得ながら、地域特性を考慮したアセスメントができる。	多様な文化を尊重し、ソーシャルキャピタルや地域の強みの特定を試みることはできるが、アセスメントには十分な助言を要する。	多様な文化や価値感に着目できず、ソーシャルキャピタルや地域の強みの特定を試みることができない。
5. 倫理原則をふまえた優先順位や費用対効果などの評価手法を用いることができる。(A-1)	倫理原則をふまえた優先順位を考慮し、費用対効果などの評価手法を適切に用いて介入効果を評価することができる。	倫理原則をふまえた優先順位を考慮し、助言を得ながら、費用対効果などの評価手法を適切に用いて介入効果を評価することができる。	倫理原則をふまえた優先順位を考慮することや、費用対効果などの評価手法を用いて介入効果を評価するには十分な助言を要する。	倫理原則をふまえた優先順位を考慮することや、費用対効果などの評価手法を用いることができない。

